

いじめについて



平成25年にいじめ防止対策推進法が施行されて4年経過しました。その間、研修等を通じて、いじめの定義や未然防止の取組等について、様々な周知がなされてきました。

今年度、管内で報告されている認知件数は、昨年度と同じ時期と比較すると、小学校・中学校ともに大幅に増えています。いじめの認知についての理解が広まっていることや、報告様式が変更されたことなど、様々な要因が考えられるところですが、**大切なのはそのいじめが解決、解消しているかどうか**です。

昨年度までの事例を参考にすると、ほとんどのケースが、早期発見と適切な早期対応により、解消に至っています。これは、先生方がいじめであろうがなかろうが、目の前の問題について**敏感に反応して、対応している結果**ではないかと感じています。

ただ、一方で、解消されていないケースがあるのも事実です。その中には、該当児童生徒同士の関係よりも、保護者同士の感情がもつれ解消に至らないケースや、学校の対応に不信感を抱かれて、長期化しているケースがあります。

この背景の一つには、いじめの理解について**保護者によっても差**があり、同じ事案についてでも、「このくらい大丈夫。」と感じられる方もいらっしゃるかもしれません。いじめとしてきちんとした対応が必要だと感じられる方もいらっしゃるかもしれません。先生方にはその理解の差を踏まえた丁寧な対応がより一層求められてきます。

いじめを取り扱った研修 ～スキルアップ研修会～

西部教育事務所では、9月29日の学級経営スキルアップ研修で、いじめと問題行動を取り扱った研修を行いました。内容は次の通りです。

- ① いじめについて
 - ・ いじめの定義
 - ・ 対応について
- ② 問題行動について
- ③ いじめと問題行動の未然防止について
 - ・ 授業でつかえる実践の紹介

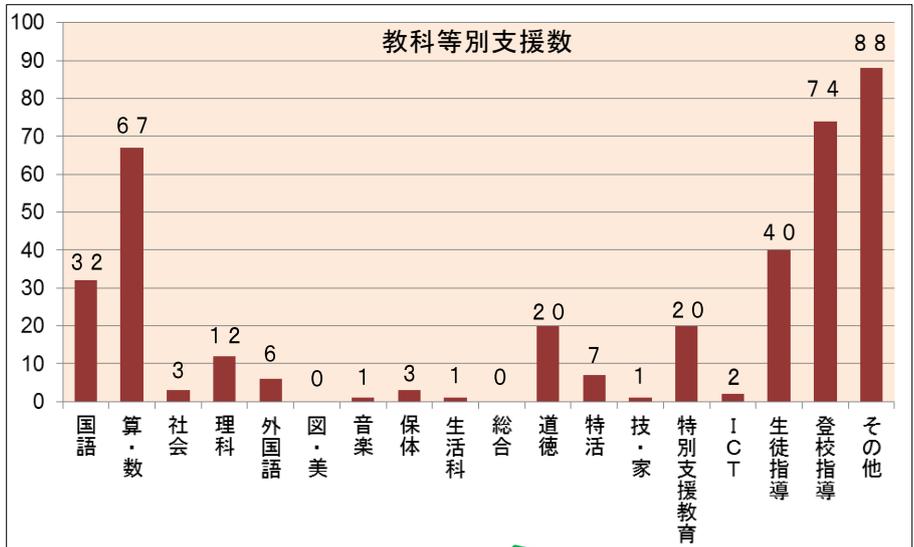
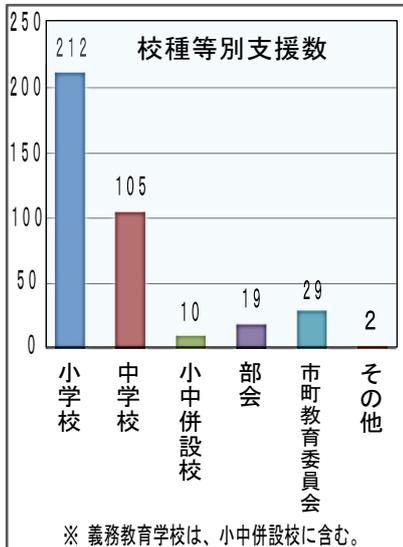


若手の先生方といじめの仮想事例を用い、ロールプレイを通して教師と加害・被害の保護の立場を体験しました。具体的な疑似体験をしたことで課題意識をもつことができ、いじめの定義を再確認したり、未然防止のためにどんなことが必要かを考えたりすることができました。参加された先生方の感想や、その真剣な様子に、いじめについての研修の必要性を感じました。

校内研修のプログラムとして、いじめについての研修も用意しています。どうぞご活用ください。

学校支援状況（4～9月）

西部教育事務所管内の平成29年度上半期の支援実績を集計しました（平成29年9月30日現在、北部支所を含みます）。4月から9月の支援実績は、下記のグラフの通りです。



学校支援の連絡窓口

- ★ 主に学校経営に関わること
管理主任 武富 貞祐
E-mail: takedomi.teisuke@pref.saga.lg.jp
- 管理主任 藤田 大輔
E-mail: fujita.daisuke@pref.saga.lg.jp
- ★ 主に学力向上に関わること
指導主任 白濱 勝
E-mail: shirahama.masaru@pref.saga.lg.jp
- ★ 主に生徒指導に関わること
指導主任 野口 幸子
E-mail: noguchi.sachiko@pref.saga.lg.jp

唐津市、玄海町の学校からの要請

- ★ 主に学校経営に関わること
北部支所管理主任 高木 俊実
E-mail: takagi.toshimi@pref.saga.lg.jp
- ★ 主に学力向上・生徒指導に関わること
北部支所指導主任 鶴田 晋子
E-mail: tsuruda.kuniko@pref.saga.lg.jp

本 所 Tel: 0954-23-3126
北部支所 Tel: 0955-73-1331

教科等別支援数の昨年度との比較

- ・ 上半期の支援の合計は377件。同時期の昨年度比で25件の増加。
 - ・ 道徳の支援数が増加。
 - ・ 学校経営やサービスに関する支援件数が増加（「その他」の項目で集計しています）。
 - ・ 生徒指導支援の増加。Q-Uの分析とその後の具体的な指導方法の紹介や学校復帰サポート支援の説明等が増えた。
- ※ その他の内容は、サービスに関する研修、若手教員指導、幼保小研修、教科の指定のない授業改善、学級経営への支援。

今年度の下半期も専門性と機動力を生かし、精一杯努力いたします。お気軽にご相談ください。

第1回 義務教育学校連絡協議会

佐賀県の義務教育学校は、大町ひじり学園(大町町)、玄海みらい学園(玄海町)、東原痒舎(とうげんしょうしゃ)東部校(多久市)、東原痒舎中央校(同市)、東原痒舎西溪校(同市)の、5校があります。大町町の船木教育長の呼びかけで、8月22日(火)に教育長、校長等が集まり、第1回義務教育学校連絡協議会が開かれました。

意見交換では、9年間を見通した教育活動を行うことで「中学生が、小学生と交流する機会があり優しくなった。」や「中1ギャップがなくなった。」という変容が報告されました。まだ歴史は浅いのですが、9学年の異年齢集団の活動や、容易になった教師同士の情報交換が早くも効果として表れているのではないかと思います。また、教師として、そのような環境で9年間の子供の成長を見ることができると魅力を感じました。

